

アスパラガスにおけるL級以上収量増大のための整枝法						
<p>[要約] アスパラガスの整枝は、140cmで摘心して一次側枝数を23本程度確保し、9月以降は側枝を除去しないことで、夏芽及び翌年の春芽収量が増加し、高単価階級であるL級以上の収量が増大する。</p>						
総合農林試験場・野菜花き部・野菜科	専門	栽培	対象	葉茎菜類	分類	普及
資料名：						

[背景・ねらい]

アスパラガスは、ハウスの大型化が進む中、従来のM級立茎技術（9本/m²（14.5本/m）、摘心120cm、下枝除去50cm以下）では立茎した株から萌芽する夏芽はグリーンの着色が薄くなり、M階級の割合が多く、高単価のL級収量増大技術が望まれている。L級立茎を中心とし立茎本数を11本/m程度（7.5本/m²）に制限するとともに下枝除去や摘心方法の改善により、L級の収量増大と光環境改善の向上技術を進める必要がある。

このため、L級を立茎する場合の整枝技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1．光環境改善のため、下枝を除去する場合、主枝摘心位置140cmの場合は90cmまで、120cm摘心では70cmまで一次側枝を除去すると収量が低下する（表1）。
- 2．夏芽収量に有効な一次側枝数としては23本程度を確保する必要がある（表1、図3）。
- 3．翌年の春芽収量は、50cm以上の一次側枝を除去しない方が収量が多くなるため、9月以降の株養成時は側枝数を制限しない（図1、図4）。
- 4．摘心位置については、120cmより140cmで摘心する方が、高単価階級であるL級以上の階級割合が高く、一次側枝数を確保できるため翌年の春芽の収量が増加する（図2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．間口3m以下の小型ハウスでは従来のM級立茎技術を活用する。
- 2．摘心は親茎の完全展葉後に行う。

[具体的デ - タ]

表 1 整枝方法が収量に及ぼす影響 (a当たり)

区名	1次側枝数	総収量			階級別割合 (%)							
		夏芽	春芽	合計	夏芽				春芽			
					2L	L	M	S	2L	L	M	S
	本	kg	kg	kg								
120-50区	23.0	191	137	328	12	55	26	7	29	57	10	4
120-70区	18.1	179	94	273	9	55	26	10	15	62	17	6
140-50区	29.3	192	151	343	17	57	20	6	30	57	11	3
140-70区	24.8	189	131	320	9	59	24	8	19	60	16	5
140-90区	16.8	128	86	214	9	52	28	11	11	63	20	6
有意差	*	*	*	*								
l.s.d(5%)	6.1	40	26	48								

注 1) L 級(茎径11~12mm)を11本/m立茎

2) 120-50 : 摘心120cmで50cm以下の下枝除去、以下同様

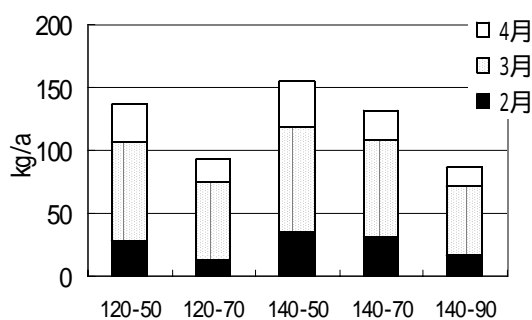


図 1 整枝法と春芽収量

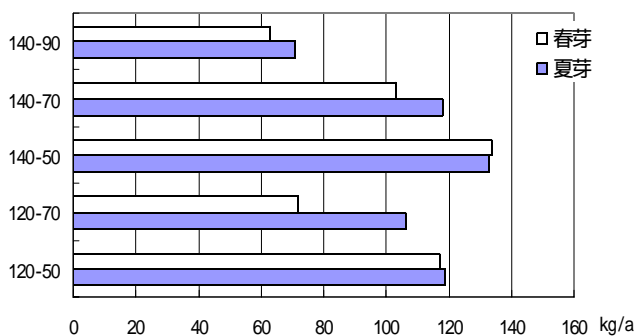


図 2 整枝法とL級以上収量

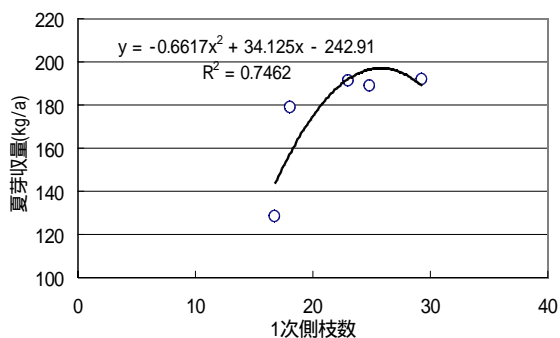


図 3 1次側枝数と夏芽収量

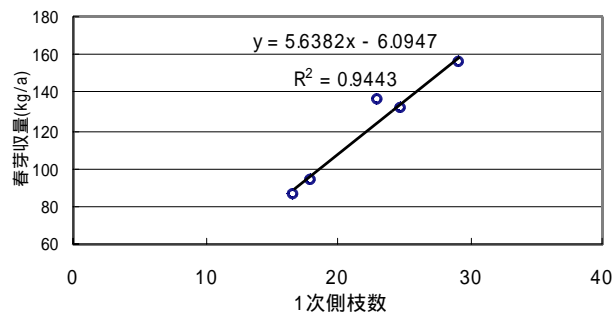


図 4 1次側枝数と春芽収量

[その他]

研究課題名 : アスパラガスの高品質生産技術開発

予算区分 : 県 単

研究期間 : 平成13 ~ 17年度

研究担当者 : 居村正博